

平成 30 年度第 2 回海老名市スポーツ振興審議会【結果報告】

日 時：平成 31 年 3 月 28 日（木） 9 時 30 分から 10 時 40 分

会 場：海老名市役所 7 階 708 会議室

出席者：【委 員】

森田 壽、齊藤賞一、増田恵一、石井正雄、今福秀雄、小野 脩、
菅原 孝

【事務局】

<市民協働部> 深澤部長、江成次長

<文化スポーツ課> 高田参事兼文化スポーツ課長、大川係長、小倉主査、
小谷田主事

【同席】

指定管理者（相鉄企業） 荒井係長、平野副所長

欠席者：石井恒夫、奥泉憲

1 開 会 高田参事

2 あいさつ 森田会長、深澤部長

3 議 題

(1) 平成 30 年度スポーツ振興事業実績報告について

<資料 1 に基づき事務局から説明>

○委員からの意見

【委 員】10 月 8 日のレクパラスポーツフェスタは、好評であった。今後も健
常者と障がい者が一緒に、同じ場所で競技を行って、自分自身が楽し
むということが続けていただきたい。

【委 員】白石市にベラルーシ代表が来て、交流があったとのことだが、白石
市はオリンピックの合宿地になっているのか。

【事務局】おっしゃるとおり、事前キャンプ地となっている。今年の 7 月にも
同じような形で合宿をし、公開演技会が行われる予定。来年 2020 年
がオリンピック本番の年なので、今年が最後になると聞いている。

【委 員】5 月の市民ウォークについて、会場が中央公園だが、受付で人が溢
れてしまっている印象がある。今年度は支障はなかったか。来年度も
同じ規模で開催を予定しているのか。

【事務局】参加者は昨年より多かったが、開会式における混乱はなかった。次
年度については、開催時期も含めて検討中。

- 【委員】募集にあたって定員はあったのか。
- 【事務局】1,000人を想定していた。
- 【委員】定員を超えて、断ったということはなかったのか。
- 【事務局】そういうことなかった。
- 【委員】開催支援をしてもらっている団体が高齢化の問題を抱えている。役員のなり手がいない団体もある。スポーツ振興審議会として、継続していくもの、新規で取り組むもの、廃止するものを考えていく必要がある。みなさんの意識として、今年やったらから来年もやるとはならず、考えていく必要がある。
- 【委員】今後のやり方については、現状がどうなのか、打破するにはどうしたらいいのかを、みなさんと考えていきたい。
- 【事務局】市民ウォークについては、レクリエーション協会から協会員の高齢化により、今後手伝いができないとの話があった。現在、開催時期も含め、どこの団体に手伝っていただくかを検討している。その他の事業についても、そういった問題が出てくる可能性がある。事業の統廃合も含め、みなさんのお知恵をお借りしながら進めていきたいと考えている。
- 【委員】市の介護保険の審査委員長をしているが、認知症予防には、スポーツが一番いい。積極的に取り入れていくべき。スポーツを振興することは介護保険の対象者を減らすことにもつながる。
- 【委員】認知症、写真を撮る人は認知症になりにくいそう。スポーツと、文化的な要素も絡めることを検討してみてもどうか。
- 【委員】レクパラスポーツフェスタは、盛況ではあったが、障がい者団体の人も会場には来ていたのだが、出るところがなく、途中で帰ってしまった人もかなりいた。一緒に参画できる種目を考えていただけたらと思っている。
- 【委員】今福委員の発言について、レクパラの反省会でもそういった話になったが、なかなか受け入れられないのではないかと。次の課題はそこにあると思う。
- 【委員】パン食い競争は、みんなが参加できるものだと思った。そういう競技を探しながら取り組んでいくといいと思う。

(2) 平成31年度予算について

<資料2に基づき事務局から説明>

○委員からの意見

- 【委員】屋内プール無料開放事業費が約210万円の減額とあるが、学校の授業とは別の話という認識でいいか。利用実績から来るものなのか。

【事務局】経緯としては、夏休み期間の学校プール開放をやめたときに、屋内プールを開放することになった。学校の授業とは別に無料の送迎バスを出して、利用してもらっていたが、年々利用者が減っていく中で、バスの利用者がまったくいない路線もあり、送迎バスも廃止となった。

期間を広げることで多くの方に利用してもらうことにしたが、その際、利用者がどれくらい増えるか定かではなかったため、少し多めに見積もった。何年か実績を重ねる中で、傾向が把握できたため、今回減額することとした。

【委員】200万円を超える減額は、大きな数字である。1回あたりの金額はそう高額ではないはず。

【事務局】こどもは1回200円である。

【委員】それで約210万は、やはり大きな減額である。

【事務局】補足として、プール事業については、運動公園、北部公園、高座温水プールの3か所がある。人数の減については、今年度は2月までの集計しかないが、利用としては、H28年度15,000人、H29年度13,000人、H30年度11,000人となっている。

【委員】どうして減っているのかを考える必要がある。

【事務局】施設までの往復を含めた気候の状況も一因かと考えている。

【委員】確かに実感として、運動公園に行っても、やってくるバスにこどもは乗っていない。

【事務局】昔に比べ、遊びの選択肢が増えたことも原因ではないかと思う。プール離れもあると思う。学校の授業もプールの授業は減っている。

【指定管理者】補足として、現在、指定管理者としてかなりの数の水泳教室を実施している。運動公園では週3回、1日2コマ実施している。以前は1週間に1コマしか実施していなかったため、6倍になっている計算。ひとつの教室は30人ほど。週6回なので、1週間に180名。北部公園でも週4回実施している。このように、チケットを使わないで、教室に来ている子もたくさんいることも、要因になるかもしれない。

【委員】遊びとしてのプール利用が減っているということかもしれない。予算が減ったとしても、効果があるものであればいいだろう。

【委員】ラグビー応援団を作るというが、非公開のはず。サッカーであれば、選手と触れ合える機会もあるが、今回はそういうことが可能なのか。

【事務局】地域交流計画というものがあり、組織委員会へ要望している。ただし、組織委員会からロシアチームに依頼をかけているが、相手方の返答待ちという状態。予算上は、運動公園で交流事業がもてるよう計上している。

- 【委員】キャンプ中は、施設の一般利用（立入）はできるのか。
- 【事務局】選手が使用する施設については一般利用はできなくなる。
- 【委員】当該公園内には入れなくなるのか。
- 【事務局】立入りができないのは、選手が使用する施設のみ。
- 【委員】駐車場は使えるのか。
- 【事務局】今のところ、使用できる見込み。
- 【委員】期間は10日くらいか。
- 【事務局】そうです。基本的に、選手はバスでの移動になる。通路も確保する必要はある。セキュリティ部分は重要視されている。目隠しも必要とされている。今後、規制する部分としては、今お伝えした部分にプラスアルファがある可能性がある。
- 【委員】自分自身が、当該施設で活動することが多い。前もって、どの部分が使用できないのかを明確に示していただくようお願いしたい。
- 【事務局】難しい部分がある。というのも、組織委員会からは、キャンプをいつ、どこでやるかを知らせてはいけないといわれている。お知らせできるのはやってくるのはロシアチームであるということだけ。我々としても歯がゆい部分である。
- 【森田議長】いずれにしても、大きな大会なので、こどもたちに夢を持たせる交流ができるよう、組織委員会も駆使してがんばってもらいたい。

(3) その他

- ・ラグビーワールドカップ2019の取り組みについて

<資料3に基づき事務局から説明>

○委員からの意見

- 【委員】応援団になるメリットはどこにあるのか。仕事を休んで参加してもらおうことになるのだろう。
- 【事務局】イベント・活動は基本的にはみなさんが集まりやすい、休日が中心になる見込み。ロシアチームのキャンプ地に出向いて何かをすることとはできない。
- 【委員】では、応援団に参加する人は何のために活動するのか。メリットが見えない。
- 【事務局】大会の機運醸成にご協力いただく。市だけでは難しい部分もあるので、みなさんと一緒に盛り上げていきたい。
- 【委員】応援団に入ればロシアチームに会えるというわけではないのか。
- 【事務局】それは難しいと考えている。
- 【委員】特定の試合のみチケットを取りたいという希望には応えられるのか。

【事務局】組織委員会はチケットの斡旋をしないため、チケットはご自身で取っていただくことになる。

【委員】静岡の試合はどのようにするのか。

【事務局】バスを借り上げるための予算措置はしている。静岡のほうでも、会場に来てもらうための支援をしている。それを活用する方向で考えている。

【委員】集まりそうなのか。

【事務局】ラグビー協会があり、また応援団結成に向け、準備委員会を組織している。こういった団体の協力もいただきたいと考えている。

【委員】300人というのは、どうやって出した数字なのか。

【事務局】応援団は、ワールドカップを盛り上げる、そしてロシアチームのおもてなしをするため、海老名として気持ちを示すもの。それが数十名では通じないだろう。形として見えるのは、200～300になるのではと考えた。何とか集めたい。

【委員】ラグビー協会は何人くらいいるのか。

【事務局】そんなに多くはない。幸いなのは、海老名には、トップリーグに所属するリコー、ゼロックス、サントリーがいること。

【委員】社員で参加してくれる人もいるかもしれない。

【委員】体育協会も、3月31日に、ラグビーの今泉 清氏を呼んで講演してもらおう。是非、この機会にラグビーを知ってもらいたいと思っている。

【委員】市は周知しているのか。

【事務局】体育協会が主催で行うものだが、公共施設にポスターを周知している。

・ねんりんピックについて

<資料4に基づき事務局から説明>

○委員からの意見

【委員】ねんりんピックの対象年齢は何歳からか。

【事務局】60歳以上となる。

【委員】34回というが、これまでどこでやっているのか。

【事務局】全国を輪番で回っている。

【委員】マスターズのようなものと考えていいか。

【事務局】そのような認識でよろしいと思う。

【委員】大会名の「横浜・川崎・相模原」というのはどういうことか。

【事務局】基本は、県と政令市が主催。その他の市町村は会場を貸すという形。海老名市はラグビーで手を挙げたところ、決定したということ。

4 その他

○事務局より

(1) 次回の会議について

任期が6月末までということで受け、6月20日(木)10時から市役所会議室に行きたい。

(異議なし)

(2) 新体制以降の会議について

7月以降に新メンバーを含めた会議を開催していきたい。通知は改めて送付させていただく。

(3) 新委員の公募について

4月から新委員を公募で募集する。団体さんには4月以降、照会通知を出させていただく。みなさまの意向確認もさせていただきたい。こちらについても、通知をさせていただく。

(4) 今後の動向

2020年のオリンピックパラリンピックについては、海老名市として何かを取り組むということは今の時点では決まっていない。ただし、2020年国体関東ブロック大会が神奈川県で行われ、県から会場を貸してほしいと来ている。経過については、今後委員の皆様には報告させていただきたい。

5 閉 会